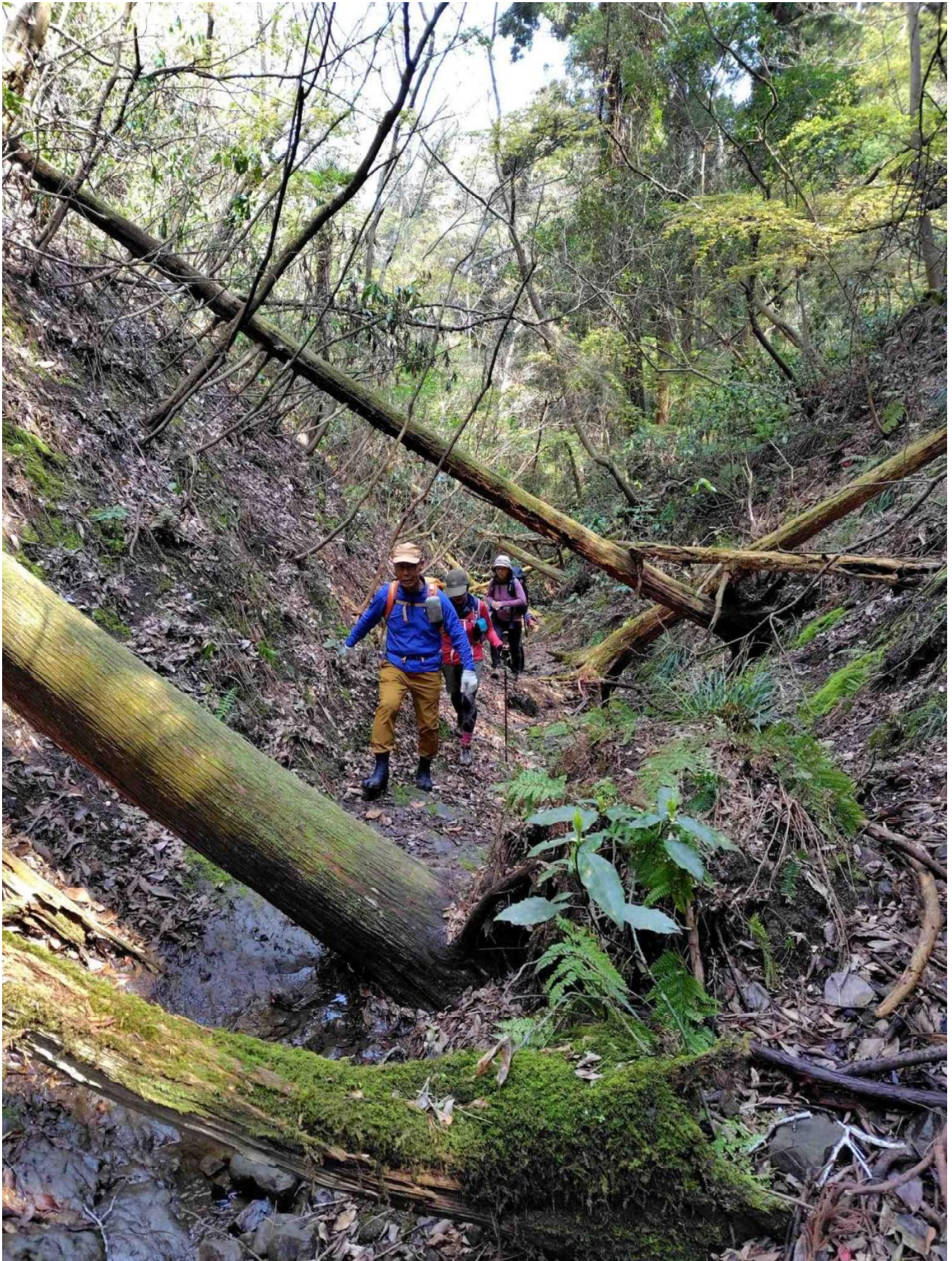


三浦 Alps・パイプ沢～V字谷

3月29日

前田、高橋、関口、小川(L)、神山、ほか1名の6人

【パイプ沢】



装備：40m ザイル、ヘルメット、ハーネス、カラビナ、シュリング、その他登攀用具、チェーンスパイクなど。

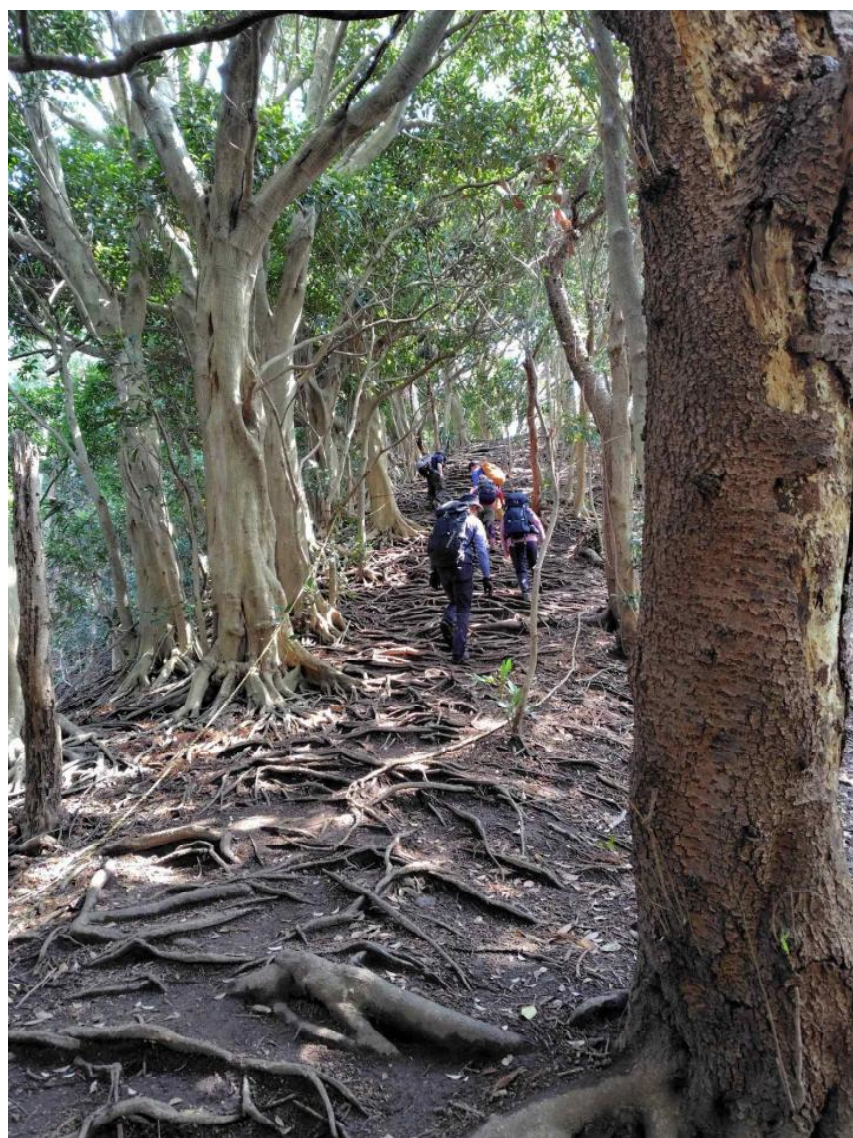
逗子葉山駅 09:10 ⇒ 長柄古墳 ⇒ 森戸川林道 ⇒ パイプ沢 ⇒ 平松分岐 11:30 ⇒ 連絡尾根 ⇒ 林道終点 12:50 ⇒ 南沢 ⇒ V字谷 ⇒ 30 番標識 ⇒ 栗坪分岐 ⇒ 新沢 BS16:00

今日はクライミングジム・アラジンの小川さんが案内して下さることになった。

晴れて暖かい日差しの下、逗子葉山駅から正面に見える長柄桜山古墳群のある尾根を超え、住宅街を降りて森戸川林道に入った。

行き先はパイプ沢とV字谷という、初めての沢である。

変わった沢の名前に興味を引かれたので、いつも使う地図を見てから出かけてきた。先



行者のルート図は、よく行く森戸川の流域をあらわしていた。

パイプ沢の出合は、森戸川林道のゲートを過ぎ、100m ほど行った簡易ゲートの先にある。ゲートは工事現場でよく見かける足場用の単管パイプで組まれている。

簡易ゲートの先に右手から沢が合流してくる。出合である。水流はほとんど無い。

平松分岐から下沢尾根(10 番尾根)に沿って流れ下る狭く、直線的で傾斜の緩い沢である。

ここは下降路として使おうとしたことがある。下降の場合の目印は 10 番標識の近くにある鉄柱で、黄色の支線カバーが目につくはずである。パイプ沢と名付けたのは、沢を歩いた印象からではないかと思う。半割のパイプを横たえたようにも感じられる屈曲が少なく、段差も少ない流れである

途中で下ってきた人とすれちがった。歩きやすく穏やかな沢だが倒木はよく出てくる。

平松分岐付近で南尾根の登山道に出たら、乳頭山方面にむかう尾根道をたどる。連絡尾根分岐では南沢にむけて下った。林道終点に降りて沢に入る。地下足袋、沢靴、ゴム長など、思い思いの足ごしらえで水に入った。水位はスネぐらい。

雨が降ったあとなので、いつもよりきれいな流水で気持ちがいい。300m ほどジャブジャブ歩く。そろそろ右手からの流れが出てくるはずである。付近は、地図によると南尾根からの谷地形がV字の形になっているので、そこが出合と思っていた。



谷が開けるだろうというところの手前で、ヘルメット、ハーネスをつけ、ザイルを出して準備を整えた。ところが、小川さんは谷に入る手前の狭いルンゼを示して、「ここです」といい、入り込んでいった。前回は一人で来たルートだという。

V 型に狭いこのルンゼは、出合手前の右手から取り付き、30 番尾根の小ピークに向かって、直接詰めるようになっている。最初のピッチで 40m 伸ばしたザイルは足りず、後続を 5m ほど上がらせることでビレイアンカーをセットできた。途中に支点は取りにくいうえ、雨のあとの濡れ落ち葉がこまかいホールドを覆っている。傾斜以上に悪く感じた。ここは丁寧にホールドを拾い、体重をうまく分散してバランスよく登る必要が。

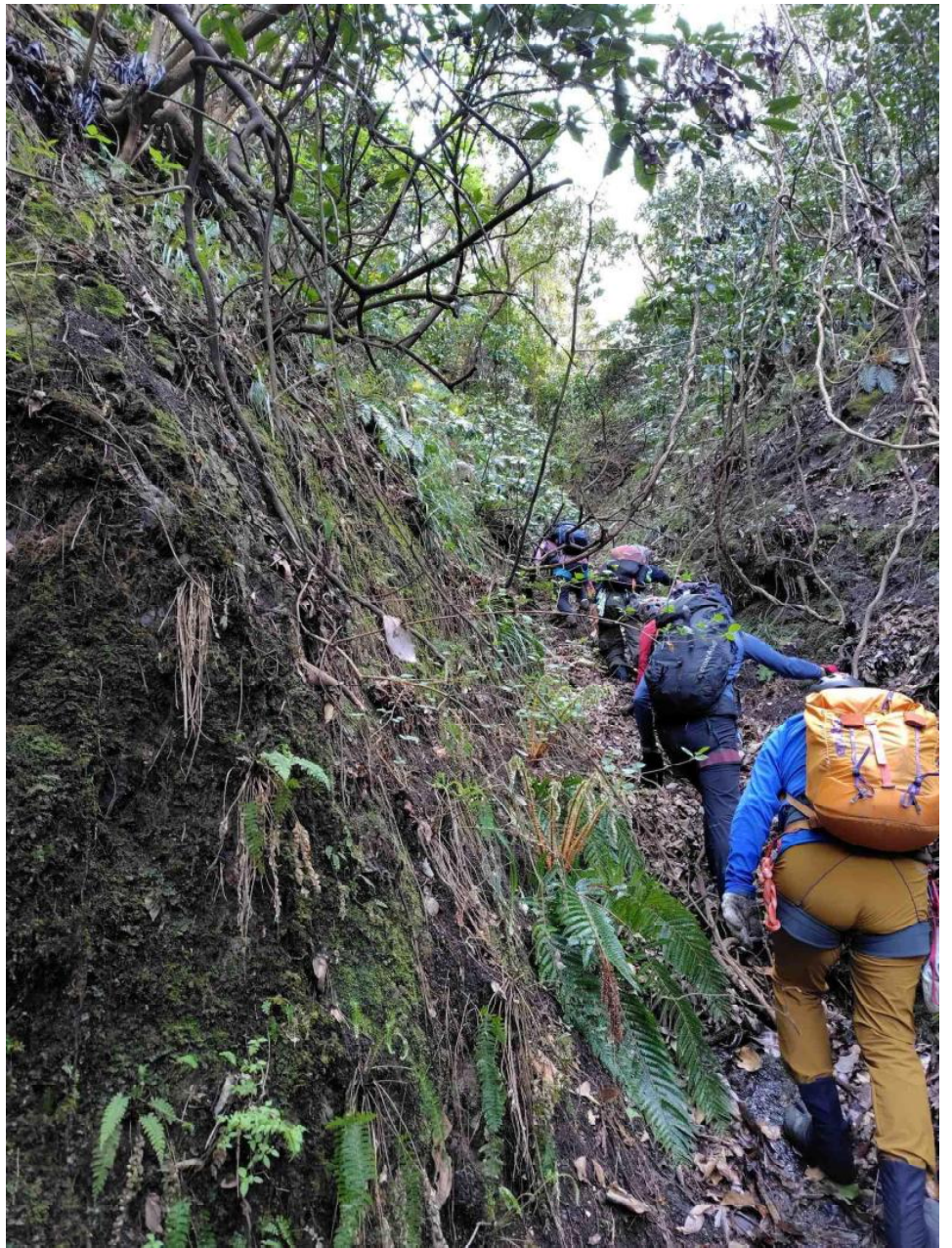
ブッシュに入り込む前、もう一幕あった。



ボロボロ、ざらざら崩れる土壁を、腐った倒木や草などを、なだめながら器械体操よろしく乗り越えるのである。のりきって藪の小尾根に乗ると、すぐに 150m ぐらいの小ピークに出た。終了点である。

ここからは明瞭な踏み跡が南尾根の 30 番標識に続いている。100 m ちよつとぐらいの起伏のないやさしい道だ。

このあと大沢谷に向かうプランもあったが、翌朝早く、遠い所へ行く人もいたので、ここまでとした。大桜をすぎ、栗坪分岐から新沢へ下った。



(記録)前田
(写真)高橋